

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	脱孤立！地域資源を活かしたつながりの場事業
資金分配団体名:	公益財団法人 信頼資本財団
実行団体名:	合同会社SOULS
実施時期:	2021年 5月～2022年 2月
事業対象地域:	奈良県
事業対象者:	子育て世代と高齢者

Version 3.2
日付: 2022年3月10日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>コロナの影響で、一人暮らしの高齢者や産前産後の出歩きにくい時期を孤独に過ごし不安を抱える人が多くなり、孤立したことによる心の不安定さが育児に及ぼす影響は多大であり、人格形成の基盤には、多世代が顔を合わせられる場の創出が必要不可欠である。各地域単位でご近所さんが顔を合わせるきっかけ創りの場としてコミュニティーカーを導入した。コミュニティーカーを各地域に走らせ、お惣菜やお弁当などの食事の提供を通して、生活の一部として利用できそれぞれの安心の場に繋がっていく。また、提供する食事は、地域課題である耕作放棄地を活用し育てた野菜や地域の生産者から仕入れた食材を加工出来るように店舗の厨房拡大も行った。地域から仕入れることで、新たな繋がりが生まれ地域内循環を生み出せるような取り組みを始めている。また子育て中の女性の雇用を積極的に行うことで、女性の自立支援や社会との接点を取り戻すサポートの場としても活用していく。現在、6名の女性がスタッフとして活躍している。</p>
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>孤独な子育てを強いられている世代を重点的なニーズとして設定していたが、地域と密接に関わる程に一人暮らしの高齢者が割合多くいることがわかった。産褥期の食事サービスも行っていくが、地域内循環と課題の解消に向けてコミュニティーカーの稼働範囲を地域重点的に回る予定で組んでいる。耕作放棄地は、そこかしこあるが今のスタッフ数では畑を持つには3か所が適当な数であったが、高齢サロンとの交流も含め人のニーズや情報収集をしやすくなった。今後の展開に必要な繋がりが構築されてきた。産褥サポートについては、産院と連携する仕組みづくりまでいかなかったが、別事業で行っている親子組クラス・0.1.2歳クラスと連携をとることで、産後のケアと自立支援のサポートに繋げていける糸口が見えた。連携したことで、クラス利用者がコミュニティーカーの出動を要請するなどの動きが入ってきている。育児中の雇用については、6名をスタッフに迎えたが乳幼児のいるスタッフは子どもの体調や予定に出動を左右される傾向にあり、安定した人員の確保が難しい。その中で、どうすれば持続的に運営していけるのかということをも自分たちで考え行動していくことも自立支援の一環として取り組んでいる。</p>
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
コロナで影響を受ける従事者	居場所の不足	必要な地域に出向いて小さな集落でのコミュニティーの場を創り出す。	・移動コミュニティーカーの出動数	・移動コミュニティーカー稼働数 40回（月20回×2か月分）	12回	店舗のある高原地域では、一人暮らしの高齢者も多く、テスト走行させた際、コミュニティーカーの出動を喜ぶ声がある。2月から定期的に周辺地域に出向き始めたことで、少しずつ周知され始めている。また、週末は広報活動で、地元を離れた地域にも出向いて行く予定がコロナの余波で開催の中止などが重なり回数か予定数には及ばなかった。
コロナで影響を受ける従事者	相談先の不足	ワンオペ育児の母がワンオペを経て事業に参画	・産褥サポート数からの事業参画者の人数	・サポート数 5名（うち3名参画） ・配食数 500食	産褥サポート数 4名 うち1名参画 ・配食数	産褥サポートの依頼は2か月間と長期的に関わる依頼があったことで、サポートした一人がスタッフになった。関係性を親密に築けたことでこの事業に興味をもつことにつながった。配食数は500食には満たなかった。家にいるだけの主婦が食事のサポートをお願いすることに抵抗があるという意見もあった。産後でも家事は女性がという意識がまだまだある地域のような。
コロナで影響を受ける従事者	居場所の不足	月100食を目標とした加工が行える程になっている。	配食数	月100食	1日50食×20日製造	1日最大30食ほどが限界であったが、厨房の拡大により1日80食製造予定でトレーニングを重ねたが、スタッフの体制や体力を考慮し持続可能な食数とフードロスを極力少なくするために50食にした。店舗に
高齢者	居場所の不足	地域の各集落10世帯を巻き込み	高齢サロンの参加数	・サロン参加人数 延べ 50人	サロン参加人数 延べ 44名	高齢者サロンさんと定期的な活動を予定していたが、コロナの感染拡大を受けて自粛希望が出たため、当初予定していた回数は行えなかったが、回数を重ねるごとに参加する世帯が増え顔みしりになり、高齢者にとっての楽しみになっている。現在のコロナの状況が落ち着いた3・4月に再開する予定。
その他	その他	耕作放棄地が3箇所を農地に	耕作放棄地の農地数	3か所	3か所	耕作放棄地を田畑にしたことで、思っていたほど育ちが悪く、土づくりからやることの必要性を感じた。次年度は地域の方にも助けていただきながら育てていく中で、地域の方との関わりも強くしていく。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	ワンオペ育児の母子を関係者はじめ助産院との連携で、的確にサポートできる体制ができています。ワンオペ育児をへて、子が育つと共にこの事業（加工・販売・地域連携・サポート）に参画している。移動コミュニティーカーの活動と耕作放棄地の農産物育成により、地域の高齢者や多世代の関りが構築され、高原地域の各集落で周知され食事が必要なお宅へお届け出来ている。それぞれの関りを通して心のサポートが構築されている。
考察等	耕作放棄地の課題に取り組み地域住民との関係性が築けたことで、一人住まいの高齢者情報が入りやすくなったことで、コミュニティーカーを特定必要な地域へ稼働させられている。外出する理由づけになること、少し歩くことがリハビリにつながることもありコミュニティーカーに集まることを楽しみにしている声もある。（各週1回）また、産褥期のサポートについては、012歳クラスへ定期的な食事提供を行っていることから、食事はコミュニティーカーに来てもらえるという安心に繋がっているとの声をいただいた。産後ドウラと連携していることから、サポートに関しての相談も受け付けられる体制をとっている。働くスタッフも子育て世代の女性ばかりということもあり、個々の地域に状況も把握しつつ今後の活動に繋げていく。

V. 活動

活動	進捗	概要
産褥期のサポート	ほぼ計画通り	産褥期のサポートの専門家、産後ドウラとの連携により、月に1・2件と少ない件数ではあるが対継続した利用による
耕作放棄地の農地化	ほぼ計画通り	農地のばしよの開拓数を途中で減らし5か所から3か所にしたことによって、無理なく行えている。苗付けした作物の収穫は5
コミュニティーカーの導入	遅延あり	コロナの影響で納車が2か月ほど遅れたことにより、本格始動が2月からとなるためお披露目とテス高原地域をト走行の数回と
高齢サロンとの活動	遅延あり	毎月1回の協同活動を予定していたが、コロナの影響により7月・9月・11月は開催した。次回は4月を予定している。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	コロナの影響により、キッチンカーブームで車両の手配に時間がかかり、予定より納品が遅れるということが起こった。またコミュニティーカーを走らせるに当たり地域を周ったことで見えてきたのが、一人暮らしの高齢者が案外多くおられるということ。産前産後のサポートと地域の高齢者を想定していたが、比重としては地域での活動をまずは重点的に行いながら徐々に産後のケアにも力を入れていくようにする。同地区に移動販売をしている地域密着の商店があったことから、同地区では控えめに活動するよう忠告されるということもあった。
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	平日は地域にコミュニティーカーを走らせ、週末は広報を兼ねてイベントや県内に走らせてる。各新聞社にプレスリリースをおこなったことで、2月の本格始動時に取材1件あり、3月に4件の取材を受ける予定である。2月・3月予定していた広報活動のイベントは中止になったが、地域を周り団欒を提供すべく外でご近所さんと食事をする場をもうけたことでたわいもない会話から、地域の方々の個人体調のこと・病気のことなど様々な情報をキャッチしやすくなった。行政との連携も視野に入れつつ、行政だけでは手の回らない所（小さな困りごとや相談）を、このコミュニティーカーが行くことで安心して話せる場所となっていくと予想される。また、周辺地区以外からも人が来店するご近所のケーキ屋さんの敷地内にて定期的に出動させていただいたことから、近隣住民と来店者との交流が生れたり、取り組みに共感しご依頼がかかる声が多くなってきた。また近隣地区からの依頼もあり4月以降 定期的に稼働していく予定である。またワンオペ育児の母子のサポートには産後ドウラ（産褥期のサポートをおこなう専門家）との連携を行いながら、現在1件サポート者の食事を提供しており、産褥期のサポートの協力を進めていく。これから地方で過疎地域が多くなるのが予想されるが、そういった地域にこそコミュニティーカーを走らせ、そこに住む帆と立ち同士のコミュニティーの再構築がなされていけるように活動していく。
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
工房やまと	月に1回の高齢者との協同作業を通じた交流を予定していたが、コロナの影響により実質開催は7月・9月・11月開催
フード・テラー	厨房拡大と食品加工に関するコンサルタント毎月1回実施。 2月以降自走できる運営の仕組みを整えた。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	12,001,000	12,007,010	100.1%
	管理的経費	2,999,000	2,771,196	92.4%
合計		15,000,000	14,778,206	98.5%

補足説明	
------	--

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	産経新聞・朝日新聞・奈良新聞・取材済み 掲載予定 日時未定 奈良・旅もくらしも 掲載予定
2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	2021.9. コミュニティーカーのロゴ作成 シンプルで記憶に残りやすく、心を繋げるコミュニティーカーということを伝えられるロゴの作成（外部依頼） 2021.11.コミュニティーカーロゴ取付 車で移動する際に目につき記憶してもらえるようにロゴステッカーを車体に取付 2022.1. 広報チラシ コミュニティーカーの本格始動をお知らせの媒体として、700部印刷、コ
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	2021.11 コミュニティーカーにステッカーを貼付 ・拡大した厨房の出入口に貼付 ・広報チラシに掲載 コミュニティーカーののぼりに記載
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	未公開	昨年、HPを作成した所で整えている最中であるため。
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	いいえ	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	
	<input type="checkbox"/> 内部監査	
	<input checked="" type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	

XII. その他

自由記述